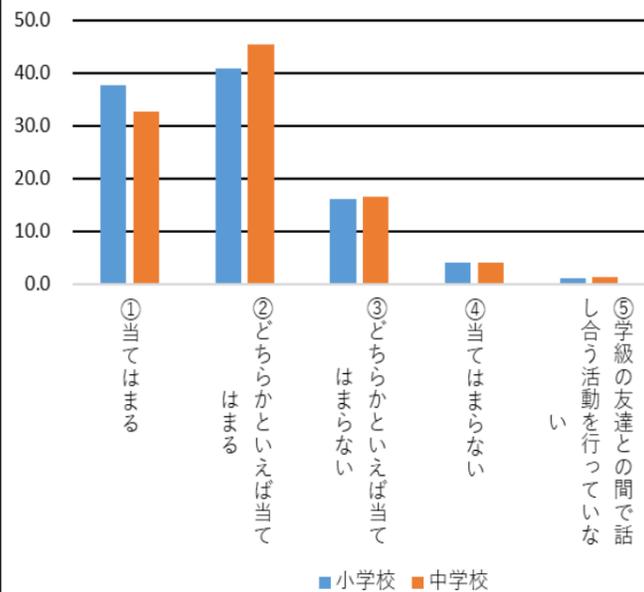


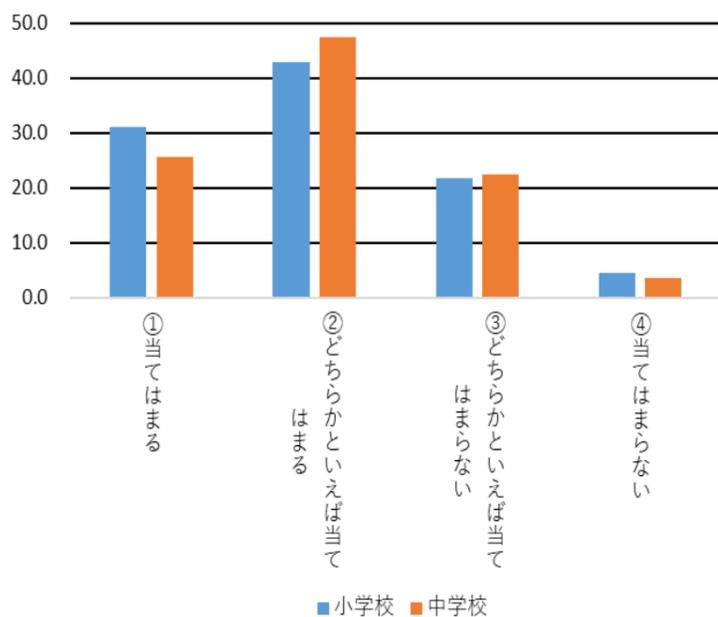
令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてⅡ 児童・生徒質問紙（学習に関すること）

◆児童・生徒質問紙の結果（学び方に関すること等）

学級の児童・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



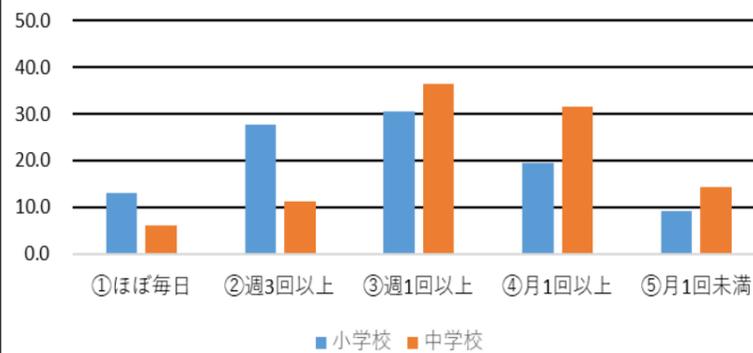
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



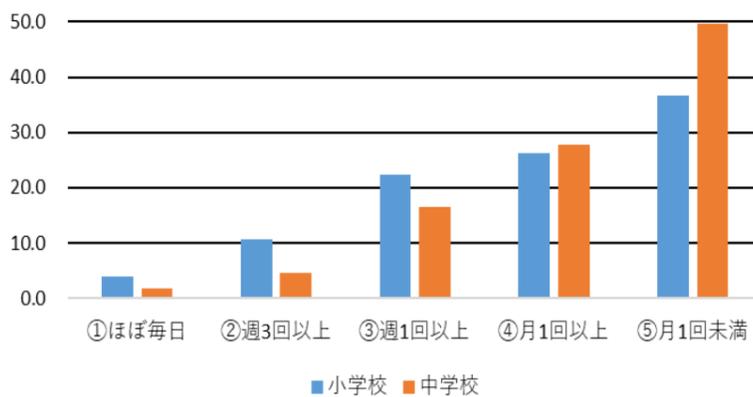
授業の中で、児童・生徒どうしが対話を通して学ぶ場面や、振り返りの場面がある程度確保されている。引き続き、計画的に授業をつくることと、「対話的な学び」や「振り返り」の質を高め、学力の向上につなげていく必要がある。

◆児童・生徒質問紙の結果（ICTに関すること等）

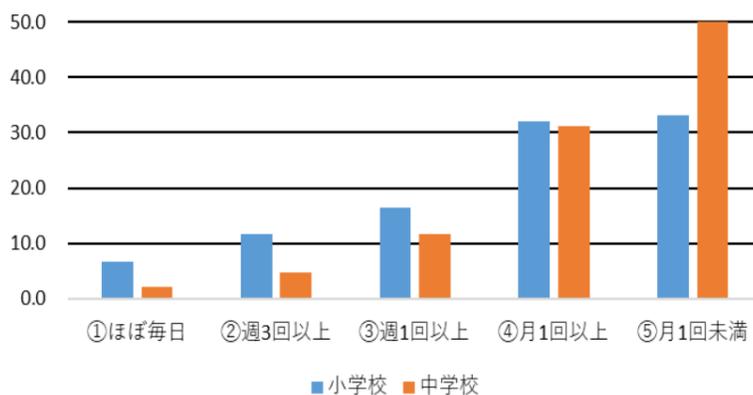
学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか（インターネット検索など）



学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか



学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか



◆ICTを活用した授業づくりのポイント

【ICTを活用できる3つの学習場面】

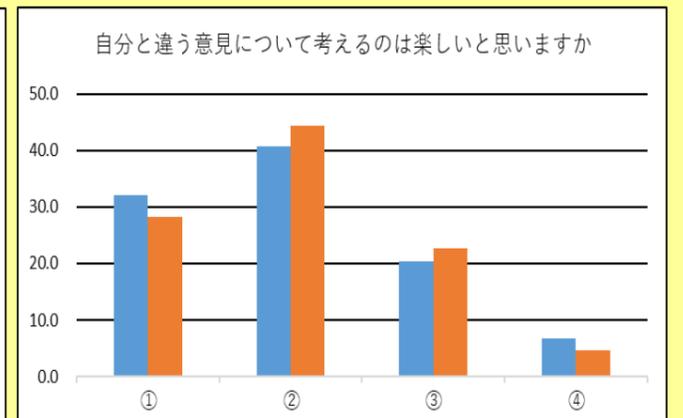
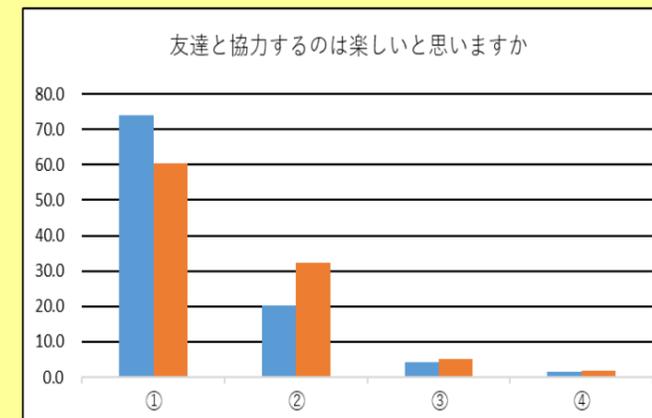
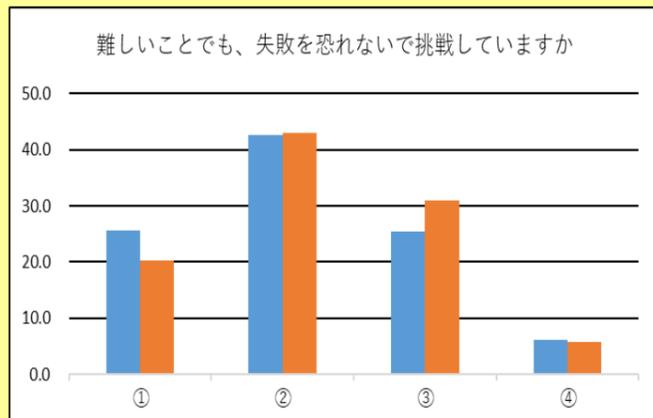
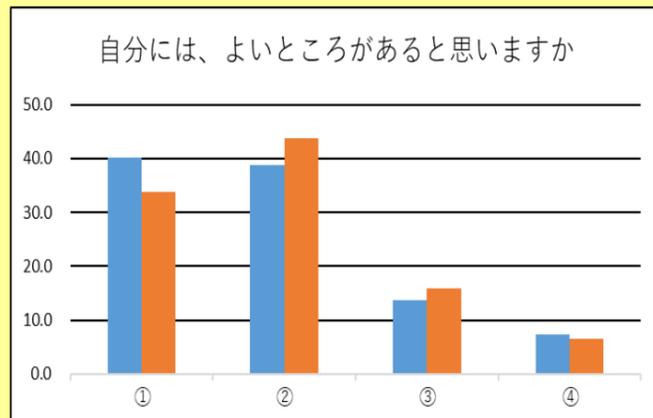
A 一斉学習	1 教員による教材の提示	挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を利用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高める。	
	B 個別学習	1 個に応じる学習	一人一人の習熟の程度等に応じる学習
		2 調査活動	インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録
		3 思考を深める学習	シミュレーション等のデジタル教材を用いた思考を深める学習
		4 表現・制作	マルチメディアを用いた資料、作品の制作
C 協働学習	5 家庭学習	タブレット端末の持ち帰りによる家庭学習	
	1 発表や話し合い	グループや学級全体での発表・話し合い	
	2 協働での意見整理	複数の意見・考えを議論して整理	
	3 協働制作	グループでの分担、協働による作品の制作	
C 協働学習	4 学校の壁を越えた学習	遠隔地や海外の学校等との交流授業 登校できない児童・生徒へのオンライン授業	



【ICT活用の場面と授業構想】

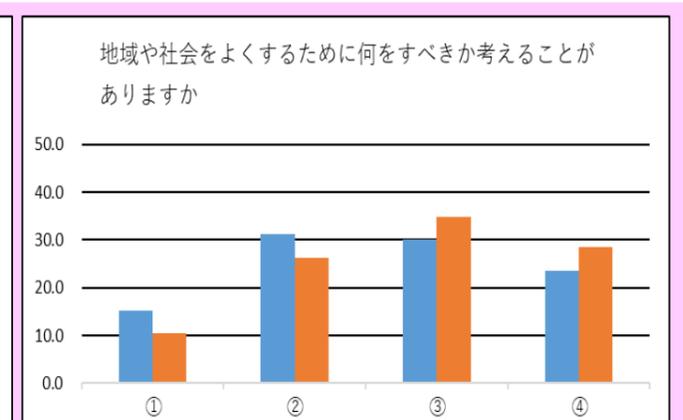
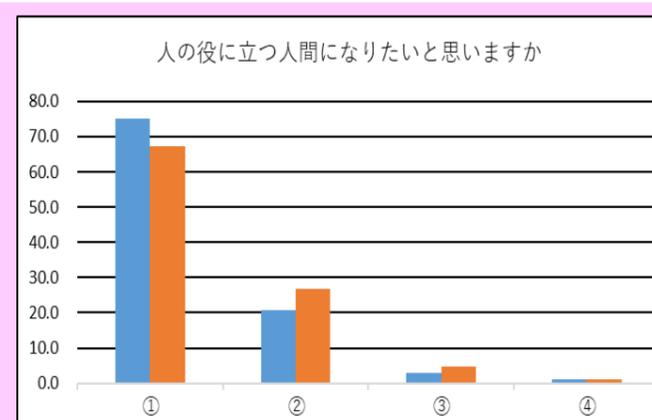
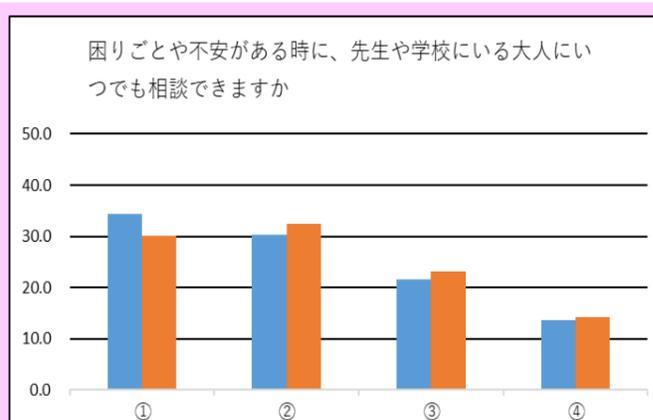
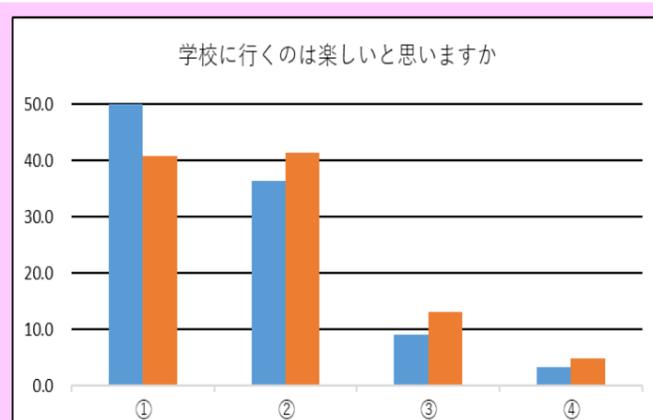
過程	学びに向かう姿や心の動き	主体的な学びを促す支援	ICTを活用した具体の手立て
導入（見通し）	<ul style="list-style-type: none"> ～について調べたい ～について考えよう 今日は〇〇を学ぼう 	<ul style="list-style-type: none"> 関心、疑問、矛盾等から学習への必要感をもたせる 解決の方法や手順等の追究の見通しをもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題の具体がもてる画像・動画を提示する 既習内容を思い起こす画像・動画を提示する
展開（追究）	<ul style="list-style-type: none"> この方法を試してみよう ～を調べてみよう 〇〇さんの考え方はいいな 別の方法はないか考えてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> 個で考える、試す、表現する時間と場の確保 個の考えや疑問を共有する 各自の追究の状況を把握し、支援する 相互活動の場を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ICTで簡潔な指示や説明をする インターネットを利用して調査させる 個やグループでまとめた結果を提示し、意見を交流させる
まとめ（振り返り）	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇が分かった（できた） 次は～に挑戦したい よく分からなかったところをもう一回見直したい 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の定着の確認 次の学習や生活の場面に活用する意欲付け 自己評価や相互評価による学習の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題や発展問題の提示 学習した考えや定理が、社会や生活で生かされる具体を提示する 自己の学習を振り返る時間を位置付ける

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてⅡ 児童・生徒質問紙（学校生活全般及び生活習慣に関すること）



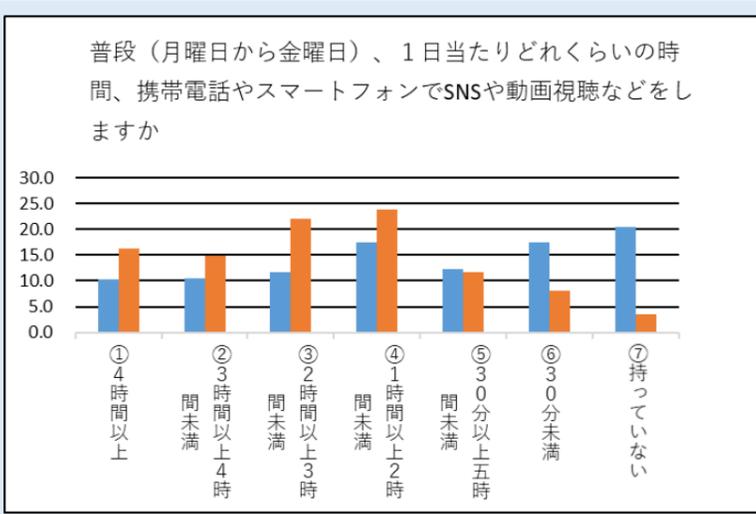
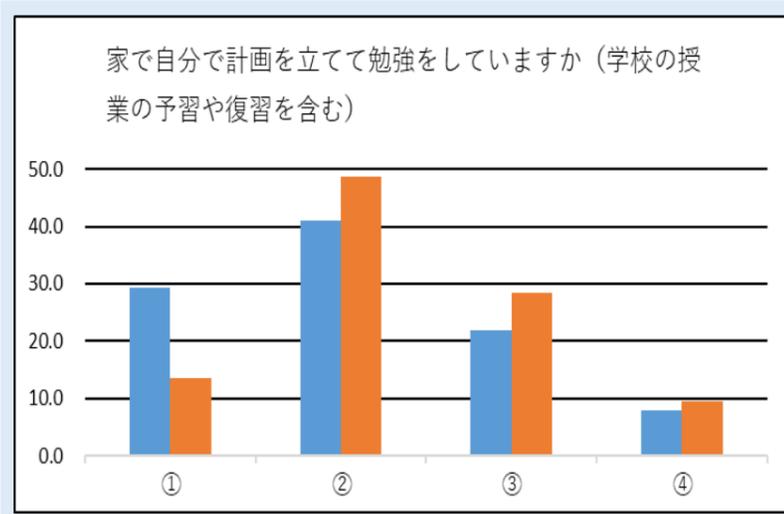
全体的に自己肯定感が高い傾向にある一方で、失敗を恐れずに挑戦することには消極的な傾向が見られる。成功体験を積ませることは自信につながるが、どのような経過を経て成功したと感じさせるかが大切である。結果だけでなく、過程を重視する指導を行い、「あきらめずに粘り強く生き抜く力」の育成を図ることが課題である。

友達と協力することが楽しいと思っている児童・生徒はかなり多く、友達とのかかわりが児童・生徒の生活の中で大きなウェイトを占めているといえる。一方で、自分と異なる意見であっても受入れ、さらに他者と話し合いを重ねて、妥当な意見や新たな意見を生み出したり、折り合いをつけたりする経験をさせることが課題である。



学校に行くことを楽しいと思っている児童・生徒は多い傾向であるが、あまり楽しいと思っていない児童には配慮をしていく必要がある。また、困りごとや不安を学校内で相談できると答えている児童・生徒は全体の60%程度であり、学校全体として児童・生徒に対する相談機能を高めていくことが喫緊の課題である。

人の役に立つ人間になりたいと思っている児童・生徒はかなり多い一方で、地域や社会のために何をすべき考えている児童・生徒は少ない。社会貢献したいという気持ちを大切にしつつ、地域と連携した授業を積極的に取り入れ、学習の中で地域や社会とのつながりを意識させ、具体的な経験をさせることが課題である。



家で自分で計画を立てて勉強していると答えた児童は、約70%、生徒は約60%であり、学年が上がるにつれて減少している。また、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを行っている児童・生徒は学年が上がるにつれて増加している。家庭学習は小・中学校ともに本市の課題であり、今後も各学校の取組を共有し合い、小・中学校で連携して改善していく必要がある。さらに、SNSルールの見直しを図るとともに各家庭への周知を徹底し、児童・生徒自らにも考えさせる機会をつくっていく必要がある。

【グラフの見方】
 青の棒グラフ…小学校6年児童
 赤の棒グラフ…中学校2年生
 表中の①～④は、児童・生徒質問紙において、①「当てはまる」、②「どちらかといえば、当てはまる」、③「どちらかといえば、当てはまらない」、④「当てはまらない」と回答したそれぞれの児童・生徒の平均正答率を示している。